

大学生におけるキャリア教育プログラムの開発・検討

Development and evaluation of career education program for university students

学籍番号：201421590

氏名：高橋 麻紗子

Masako TAKAHASHI

中央教育審議会（2011）によれば、キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義されており、初等中等教育から高等教育にかけて継続することが望ましいとされている。大学におけるキャリア教育では、初職選択のための就職支援が多く実践されている中、自身のキャリアを長い見通しを持って考えることが難しくなっている。また、大学生においては、就職活動の高速化や情報化により、不安や焦りが生じやすい状況となっており、就職活動が本格化する前の大学生への対応が必要である。そこで、本研究では、職業選択の際に重要視する軸（項目）に注目し、また、Kuhlthau による情報探索プロセスモデルを応用した新しいキャリア教育プログラムを開発・検討した。

本研究の目的は、(1)就職活動が本格化する前の大学生を対象としたキャリア教育プログラム（以下、プログラム）を開発すること、(2)開発したプログラムを実践し、プログラムを評価すること、(3)開発・実践の結果から、今後の検討点を明らかにすることとした。本研究では、大学生の就職活動における課題解決を目的としたプログラムを開発するために、プログラム案を設計し、専門家3名へのヒアリング調査を実施した（研究1）。開発過程で、Kuhlthau の情報探索プロセスモデルに加え、Eisenberg & Berkowitz の Big6 スキルモデルを応用した。さらに、研究1で開発したプログラムを大学2年生、3年生の参加希望者を対象にそれぞれ実践し、参加者がプログラム中で作成したワークシートを分析した（研究2）。最後に、研究1・研究2から意義と今後の検討点を考察した。

研究1で開発したプログラム全3回では、情報収集のための調べ学習や視野を広げるためのグループワークなどを交え、職業選択のための情報を収集・分類・評価できるスキルを習得することを目標とした。第1回では、「職業選択のための視点を知ること」を目標に、職業選択に関する文献を読み、業務内容や経済的条件など、職業選択の際に重要視する軸（項目）を順位づけさせた。第2回では、「軸（視点）から職業に関する適切な知識を得ること」を目標として、第1回で多く選ばれた職業選択の軸3点と、研究実施者および進路指導の専門家2名が選んだ学生に知ってほしい職業選択の軸4点から、地方銀行員と地方公務員との2つの職業についての知識を整理させた。また、職業に関する意外な情報を含む新聞記事を示し、調べ学習の際にも意識するよう指導した。第3回では、「知識が、自身にとってどのような情報なのか分類・評価すること」を目標として、グループワークでの職業に関する情報共有の後に、すでに知っていた情報やプログラムを通じて得た情報を、魅力的な情報かどうか、意外な情報かどうか、それらが自身の職業選択にどのような影響を及ぼすかを評価させた。

また、プログラム時間外では、自身のなりたい職業や地方銀行員・地方公務員に関する調べ学習や、プログラムで調べ学習した複数の職業の共通点や相違点を表記して可視化させる課題などを行い、プログラムへの取組状況を調査した。

参加者の課題への取組状況として、調べ学習では、複数メディアの使用を指導したが、実際にインターネット以外のメディアを使用する学生は少数であった。また、参加者から「職業について考えるきっかけとなった」「どういう軸をもてばいいのかわかってよかった」などの感想が見られた。

以上のプログラムの開発・実践の結果から、本研究では以下の2点が示唆された。

第1に、参加者の感想から、本研究で開発したプログラムが、参加した学生にとって、職業選択について意識するきっかけとなったことが示唆された。

第2に、第1回の目標である職業選択の軸に関する理解は得られたことが推測される一方、第2回の目標の適切な情報収集は十分に行われなかったことが示唆された。第3回の目標の情報の分類・評価は、適切な情報収集によって得られたさまざまな情報が必要であると考えられ、今後のプログラムの情報収集に関する教示の方法について検討が必要であることが示唆された。

今後は、プログラムのどの部分が効果的であるかを明らかにすることや、進路選択における自己効力感や進路不決定への効果の検討などを行うことが望まれる。

研究指導教員：鈴木 佳苗
副研究指導教員：西岡 貞一